

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902389		
法人名	医療法人社団 淳彩会 永山循環器科クリニック		
事業所名	グループホーム せせらぎの里 A棟		
所在地	旭川市永山7条4丁目2-1		
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果市町村受理日	平成24年11月29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902389-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人のグループホームである為、医療面が充実している、院長先生は毎日訪問、施設長は看護師であるため緊急時対応は3分以上待つ事無く対応できる。地域交流ホール「ふれあい会館」を併設し高齢者体操サークル・幼児サークル・ダンスサークル等、地域の皆さんに解放している、又、施設長がグループホームケア研究会の会長である為、研修会の会場などに使用し介護職員のレベルアップに努めている。運営推進会議には町内会・家族会・入居者様・行政に参加していただき運営に活かしている。隣りのあんじゅ1番館にはパワースタジアムがありホームの入居者様も使用する事ができる。地域の保育園・中学校との交流もあり、職場体験の受け入れやお遊戯を見せてもらったりすることが入居者様の楽しみになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<併設の医療機関との連携>
経営母体が医療機関であり、更に施設長が看護師のため、入居者の日常の健康管理や緊急時の診療の対応が迅速であり、家族から大変感謝されているのが今回の家族アンケートの中で評価されており、常に適切な診療を受けられる支援体制になっている。

<地域との交流に向けた取り組み>
この事業所は、町内会行事への参加や事業所実施の行事・避難訓練の地域の方の参加をはじめ、併設の地域交流ホール「ふれあい会館」を地域に開放し、高齢者サークル・幼児サークル・ダンス、ストレッチサークルなど各層で広く利用されており、地域活動の交流に大きく貢献している。また、地域の保育所や小学校との定期的な交流や、毎年、中学校の職場体験学習も継続的に受け入れており、これが入居者の楽しみの一つになっている。更に、認知症の人の理解や支援方法について、地域の人達を対象に認知症サポーター講座の開催を継続的に計画しており、地域との絆を大切にしている取り組みがある。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域との交流」を掲げ職員は毎朝の申し送り時唱和し、全ての職員で共有し実践している。	事業所独自の理念の中に「地域との交流」を掲げたケア理念をつくりあげ、日常業務やミーティングを通じて話し合い、職員間で共有をしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し入居者様と共に清掃に参加したり、資源回収に協力したりしている。ホームの行事や消防訓練には町内の方々にも参加していただいている。	町内会に加入し、行事参加や事業所主催の行事に地元の人々に参加を戴くなど日常的な交流に努めていると共に火災避難訓練に参加を呼びかけ協力体制の構築に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の開催を年度内に計画している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き 入居者様・地域の方・ご家族様・地域包括支援センター様などから意見をいただきサービスの向上に活かしている。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、運営に関する報告や事業所の取り組み内容の意見交換の場となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護高齢課へは介護保険の更新の時だけでなく、わからない事があれば聞きに行く等している。地域包括センターや消防署には運営推進会議・消防訓練・救急救命講習等の協力を仰いでいる。	市担当課や包括支援センターとの連携の重要性について認識し、必要に応じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。また、消防署とは消防訓練・救急救命の講習などの協力体制を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置、2ヶ月に1度委員会を開催し 意見交換をおこなっている。研修会に参加し職員全員が身体拘束の具体的な行為について理解している。	身体拘束廃止委員会を設置しており、身体拘束廃止、高齢者虐待防止について、管理者及び職員は共通認識が持てるように研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置、2ヶ月に1回委員会を開催し言葉や態度による虐待がないか話し合っている。研修会にも積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに研修会などに積極的に参加し全体会議で報告する事で職員の理解を深め、成年後見制度などが必要な利用者様がないか検討している。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書・契約書・同意書について十分時間をかけて説明している。改定時には家族会総会などで説明し、承諾書をもらう等理解・納得を図っている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置したり、面会票に意見・要望を書き込む欄を設けたりしている、入居者様・ご家族様とは積極的に話をするように心がけており、要望を聞き取るように努力している。	家族や来訪者等が管理者、職員に意見や苦情などを言ってもらえるような環境づくりに努めている。また、玄関に意見箱を設置して、それらを運営に反映できるように努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度全体会議を開き 職員の意見を聞いている。意見は運営に反映させるように努めている。	全体会議を開き、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設けている。また、意見や要望は施設運営に反映できるように努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員への登用や、資格取得する場合は勤務を融通する、5年・10年勤続でのディズニーランドやハワイ旅行等 やりがいを持って働けるよう職場環境を整えるように努めている。研修には積極的に参加を促し 向上心に働きかけている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修に参加を促し、ケアの向上に努めている。ヘルパー資格を持たずに就職した職員には働きながら資格を取得するよう勤め勤務を調整している。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長が「グループホームケア研究会」を作り職員の研修参加や交流会に積極的に参加を促している。地域包括センターや道北ブロック等の研修案内には積極的に参加している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接しご本人の困っていることや不安・要望等をお聞きするように努め、信頼関係を築くように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接や重要事項説明書・契約書の説明の際に困っていることや要望・どんな生活を送って欲しいか等の希望を聞くように努めている。入所してからも信頼関係を築いていけるように会話する機会を多く持つように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望されている段階で 入所のレベルであるかどうかを確認し、入所レベルでは無い場合は他のサービスもある事を説明している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事や作業をする等 家庭的な雰囲気大切に信頼関係を築くように努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に数回 家族会行事に参加していただく等共に本人を支えていく関係を築いていくように努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に居た施設や友人宅など 行きたい場所があれば出来るだけ対応し、面会や電話も自由にしてもらい、ホーム以外の関係も大切にするよう支援している。	知人の訪問支援や散歩、町内会行事等の参加を通じて、馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	遊びや(カラオケやゲーム)行事を通して交流を持ち、自由に居室を行き来するなど孤立しないように援助している。入居者様同士がトラブルになりそうな時には職員が間に入るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や自宅に戻った後も必用に応じて相談や支援を継続するよう努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人のチェック表を作成し本人の希望や意向の把握に努めており、本人の意向が確認できない場合は随時カンファレンスを開き 本人本位に検討している。	個人別のチェック表の活用やカンファレンスを通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のフェイスシートやアセスメント表を元に、ご本人様との会話の中で昔の話を聞いたり、ご家族様からのお話を聞く等し、今までの経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌の記入・ケアプランの評価を行なうことで現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望、ドクター・看護師の意見を参考に全職員がモニタリングを担当し、全体会議で話し合う事で現状に即したケアプランの作成ができています。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護日誌の記入・ケアプランの評価の記入・連絡ノートを活用することで情報を共有し、その情報を元にケアプランの見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の希望に応じ、柔軟な支援・サービスに取り組めるよう努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事に参加したり、運営推進会議や消防訓練への参加をお願いする等 町内の方や消防・地域包括センターの方々と一緒に入居者様を支えるように努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は永山循環器科クリニックの院長であるが、かかりつけ医や他病院の受診希望があれば 通院の援助を行うなど 適切な医療が受けられるように援助している。	関連法人の医療機関であるため、医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族が、受診希望するかかりつけ医があれば、通院の援助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師なので毎日様子を見に来てくれる、その都度入居者様の体調等 相談や確認を行なっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長や管理者が病院関係者と密に連絡を取り合うように心がけ、早期退院にむけて連携を図っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族が希望される場合はターミナルケアを行うこともできる、訪問看護を利用するなどして職員全員が方針を理解し、チームで支援に取り組んでいる。	本人や家族が希望すればターミナルケアを実践できるが、本人や家族の意向や医師、看護師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を仰ぎ、救急救命訓練をおこなっている。職員全員が必ず1回は参加し AEDの使い方や人工呼吸・心臓マッサージの方法を実践的に身に付けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非難訓練には町内会の方・地域包括センターにも参加していただいている、連絡網は職員・地域・家族会の協力を仰いでいる。	スプリンクラー、火災報知器等の設備が完備し、年2回の地域と協力した避難訓練も実施している。また、震災や水害等の緊急時の連絡網の体制が整備されている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念にも掲げており、全体会議・ミニカンファレンスでケアの声かけ・提案・振り返りを行い、十分な配慮を行っている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないようにミーティングで職員間で周知し、共有されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で自己決定ができる場を増やし、本人の希望や思いを表せるような雰囲気作りやかわりを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れは決まっているが、その日の気分や体調に合わせて一人一人の希望に添えるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の買い物会で一緒に服や化粧品を選んだり、訪問美容を利用しない方は行きつけの美容室まで送り迎えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食職員と一緒に食事をしている、準備や後片付けも一緒に行き、嫌いな物には違う物を提供するなどしている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら職員と利用者が、毎日の食事の準備、後片付け等と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェック表で量の把握を行い少ない場合はエンシュアキッド・ゼリーなどで対応している。栄養バランスについては栄養士がメニューをたてている。極端に摂取量が少ない場合はドクターに相談し点滴などで対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の能力に応じた口腔ケアの援助を行なっている。一人で出来る方は声かけ・介助が必要な方は出来ない部分を介助する事によって口腔内の清潔を保っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツで入所された方も排泄パターンを把握するように努めカンファレンスで検討する事によってオムツから紙パンツへ・紙パンツから布パンツへの移行ができています。定時・訴え時以外にも排泄パターンを把握した時間にトイレ誘導を行っている。	チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・水分摂取・整腸作用のある食品の購入援助などを通して便秘にならない生活を送っていただけるように援助している。必用に応じて下剤内服や座薬使用なども看護師の指示に従って行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回だが、週4回入浴する方もいるし、受診や入浴拒否などがある場合は無理せず曜日や時間をずらすなどしてゆっくり入浴していただいている。	週2回の入浴であるが、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が希望すれば曜日を変更するなど個々に沿った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室が個室になっており就寝時間や起床時間も個々の生活パターンに合わせている。なるべく居室には馴染みの物を置いてもらっている。日中は居室やリビングなど好きな場所で過ごしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が交代で薬のセットを行うことで、目的・副作用・用法・用量などについて理解している。頓服や新しい薬が処方された時には管理日誌に書き込んで全員で把握している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は入居者様の趣味である麻雀や手芸・習字などが継続できるよう、畑仕事や散歩・ドライブ・買物会など楽しみや気分転換を図るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月行事として買い物会やドライブ・花見・お祭りなどは企画しているが、個別に対応が必要などにはなるべく希望に添うように援助している。	施設での企画行事や一人ひとりの希望にそって、散歩やドライブ、花見、お祭り、買い物等戸外に出かけられるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診や理・美容代金などは事務所で預る場合が多いが、ご家族・ご本人の希望がある場合は金銭の自己管理されている方もいる。事務所で預っている方にも買い物会の支払などを行ってもらうよう援助している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいるし、希望があれば事務所の電話は無料で使用してもらっている。手紙の投函を頼まれることもあり個別に援助している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは清潔と季節感を大切に、季節ごとの飾り(雛人形・クリスマスツリー・生花など)を取り入れている。光や音の不快な刺激が無いように配慮している。	共有のスペースは、リビングや廊下の壁に行事参加した写真の掲示や季節毎の飾りつけが行われ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、入居者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには多めにソファを置き思い思いの場所でテレビを見たり、食堂の椅子に座ってお茶を飲みながら・新聞を読みながら お話したり作業したり、畳のスペースがあったりと居場所の工夫を行っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室個室の為、使い慣れた物や好みの物などを持ってきてもらい、自由に居心地の良い空間を作ってもらっている。鉢植えの花や仏壇・写真・お孫さんの書いた絵などが飾られている。	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計になっており、手すりや高さの違う便座を設置する等して安全に配慮している。トイレには大きな表示、居室には表札を掛ける事によって安全かつ自立した生活を送っていただけるように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902389		
法人名	医療法人社団 淳彩会 永山循環器科クリニック		
事業所名	グループホームせせらぎの里 B棟		
所在地	旭川市永山7条4丁目2-1		
自己評価作成日	平成24年10月19日	評価結果市町村受理日	平成24年11月29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902389-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議には町内会、行政、入居者様、家族、有識者が参加し、多くの意見を頂き運営にいかしている。また町内会、家族会、行政と緊急連絡網が構築されており、非常時(行方不明、火災、災害など)には駆けつけてくれる体制となっている。地域の保育園、小学校とも定期的に交流があり、入居者様の楽しみとなっている。また毎年地域の中学校の職場体験学習も受け入れている。併設のふれあい会館は地域に開放しており、高齢者体操サークルやダンス、ストレッチと口コミで利用が広がっている。町内会にも加入しており、職員とともに行事などに参加し、町内の方と交流の機会を設けている。家族会主催の夏祭りがあり、入居者さまは一日ご家族様と過ごされ楽しまれている。町内からも多数参加いただき、コミュニケーションの機会となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年11月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域との交流」を掲げ毎朝の申し送り時に唱和しその思いを共有し実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、町内行事などに参加できるよう支援している。地域の保育園、小学校、中学校との継続的な交流もある。夏祭りでは地域の方にも多数参加いただいた。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の開催を年度内に計画している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、入居者様、地域の方、ご家族様、地域包括支援センター様などからの意見をサービスの向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターや消防署などに運営推進会議や消防避難訓練に参加いただき、介護高齢課には推進会議の報告書を提出し協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会を設置し2ヵ月ごとに全職員で話し合い、身体拘束の無いケアを実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し2ヵ月ごとに全職員で虐待に当たるケアが無い話し合いをしている。研修会には毎年参加し全職員が虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には参加できる様支援し全体会議での報告などで制度の理解に努めている。成年後見制度を利用している方もいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書、契約書などについて十分時間をとって説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また運営推進会議に利用者様やご家族が参加して意見を述べられ、運営に反映させている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員全員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。日常でも管理者に話しやすい職場環境に努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員への登用や5年・10年でハワイ旅行など、やりがいを持って働けるようしょくば環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修に積極的に参加を促しケアの向上に努めている。資格を持たない職員には働きながら資格を取得するよう休みを確保している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長が「グループケア研究会」の会長をしており、研究会や交流を積極的に行っている。職員も積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に困っていることや不安なことなどを聞き、入所してからは全職員が会話の機会を多く持つように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で困っていること、要望などを十分時間を取ってお聞きし、入所後も面会の機会を多く持ち、関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接で本人が納得されているか確認し、状態によっては他のサービスも可能なことを説明している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一緒に家事をしたり、入居者さんから学んだり、家族的な関係を築けるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会があり、夏祭りやドライブ遠足などご家族と共に企画し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出など制限が無く、電話も自由にかげられる。ご家族と外食したり、相撲を見に出掛けた方もいる。希望がある方には外出の支援もしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者さんの個々の性格を把握しており、遊びや会話を通じてコミュニケーションがとれるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し定期的に希望や意向の把握に努めている。日常の会話や表情から本人の意向を汲み取りカンファレンスにて本人本位に検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族などから聞き取り、また日常生活の中で得る情報もあり、日々情報把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録の記入やケアプランの確認を毎日行ない現状の把握に努めている。モニタリングや申し送り職員間で情報を共有している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をチェック表、モニタリングで確認。医師の意見も聞きサービス担当者会議を行ない、現状に即した介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、管理日誌、連絡ノートなどで情報を共有している。毎日のケアプラン実践のチェック、定期的なモニタリングを行い介護日誌の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望に応じ柔軟な支援やサービスに努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事(清掃活動など)に参加したり、ホームの行事や運営推進会議に町内の方が参加しており、利用者さんとの交流もある。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を確認後主治医を決めている。主治医は24時間対応してくれ、本人、家族の希望があれば主治医の紹介状で他病院の通院援助も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日定時にバイタルチェックを行い、また日常の関わりの中で変化や異常に気づいた時は主治医に報告し適切な指示を受けている。また施設長が看護師で毎日来所し利用者さんの体調を把握し、必用時は適切な指示を受けられる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて他医療機関とも連携ができています。また早期に退院できるよう度々面会し情報交換や相談に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やターミナルについて本人、家族と意思確認し職員、主治医、家族ともカンファレンスを行ない方針を共有している。また訪問看護ステーションとも連携している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員による救急救命講習を年2回行い全職員が受講するよう計画しており、実践力を付けるよう努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防非難訓練には町内や地域包括センター、消防署職員、ご家族にも参加いただいている。緊急連絡網があり、地域との協力体制を築いている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念でも掲げており、全体会議で日頃のケアや声かけの振り返りを行い、十分な配慮を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で自己決定できる場面を増やし、本人の希望や思いが表せるような雰囲気作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れは決まっているが一人一人のペースを大切に、希望に添えるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、好みの服を家族さんが買ってきたり、なじみの理容室に行く支援もしている。毎月お孫さんが来所しカットする方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食職員も一緒に食事し、食事の準備や後片付け等一人一人の力に応じて一緒に行っている。嫌いな物や制限のある方には個別メニューの提供もしている。			
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎日記録し、少ない場合は摂取できるよう好みのジュースやコーヒーなどでも対応している。食事量が極端に少ない時は主治医の指示でエンシュアでの対応もある。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの援助を行ない自分で出来る部分は行ってもらっている。口腔内に異常がないかも確認している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンをほぼ把握しており、意思表示出来ない時は定時に誘導している。立ち上がりにファンレストテーブルを使用し安全に配慮しながら持っている力を生かすよう支援している。			
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じてパワーリハビリや散歩を行い、朝の体操は全員が参加し体を動かすようにしている。ヤクルトや野菜ジュース、整腸剤、下剤など個々に応じて対応している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回だが、足浴をしたり、希望により曜日や時間を変更したり、個々に応じて支援している。			
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なのでプライベートが保たれ、横になったり、テレビを見たり、自由な時間が確保されている。家具や寝具もなじみのものを持ってきてもらっている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は全員が薬剤情報を読み、副作用などを把握している。新しい薬が処方された時は日誌に記入し全員が周知し症状の変化の確認に努めている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	麻雀や手芸、習字、園芸、散歩など一人一人の楽しみごとを把握しており、続けられるよう支援している。ドライブや買物、行事なども多数あり楽しみとなっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、ドライブ、散歩、郵便局、友人宅など希望にそって外出支援している。家族会主催でピクニックに行ったり夏祭りには町内からも多数参加される。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は自分で所持している。ひとり一人の力に応じて買物の支払の支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は無料で使用でき、本人が掛けたい時に利用している。手紙を書く方もおり、住所記入の支援や投函も援助している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を保ち、玄関やテーブルに花を飾ったり、クリスマス、雛祭り、お正月など季節感を取り入れた工夫をしている。皆で見るテレビの場所や個々の決まった居場所もある。不快や混乱を招かないよう配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで二人で談笑したり、一人で外を眺める椅子があったり、育てている植物のところで一人で過ごしたり、と居場所の工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、なじみの物を持ってこられ、家族の写真や花を飾ったり、居心地の良い居室になっている。仏壇を置いている方もいる。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーであり、高さの違う手すりの設置や高さの異なる椅子もある。安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	認知症の理解や関わり方などを地域の方々に理解していただけるよう継続的な活動を行う。	認知症の人の理解や関わり方をより多くの地域の人に理解していただく	認知症サポート講座を開催する。	12ヶ月
2	13	外部研修を職員が積極的に参加できるように確保しているが、参加職員や理解度にばらつきがある。	認知症ケアの学習、身体介護、介護保険制度の理解など定期的に内部学習会を行う。	2カ月毎の全体会議の中で時間を設け学習する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。